

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業への影響について 【農林水産業における影響調査結果】

1 調査の概要

新型コロナウイルス感染症により、社会経済活動への影響が長期間に及んでいることを踏まえ、前回調査（令和4年1月）以降の農林水産業への影響について、県内農林漁業者及び関係団体に対し、聞き取り調査を実施。

【調査期間】令和4年5月18日から5月26日まで

【調査数】196（農業111・畜産業32・水産業17・林業36）

2 分野別の主な状況（生産者等の声から）

（1）農業

1）売上げの状況（2022年2月期・3月期・4月期実績、2022年5月期見込み）

	減少した	変わらない	増加した
2020年同期比	14%～22%	22%～28%	44%～53%
2021年同期比	14%～17%	25%～34%	40%～50%

2）個別の状況

- ・ハウスすだち 飲食店需要は回復基調であり、過去2年に比べ売り上げは増加。しかし、加温のための燃油価格が上昇し、思ったほどの利益がない。
- ・シンビジウム 3・4月のイベントシーズンは、一時的に需要・売り上げとも回復したが、本格的な冠婚葬祭需要までは回復していない。
- ・ハウスきゅうり 2月の「恵方巻き需要」は、新型コロナ以前並の需要・売り上げがあったが、今作の売り上げをトータルで見ると、燃油価格高騰の影響で利益が伸びていない。
- ・かんしょ 家庭消費の拡大や他産地の出荷量減少などにより、需要・売り上げとも増加。
- ・レタス 堅調な家庭用需要と他産地が寒波の影響を受けたことにより、売り上げが増加。
- ・ネギ 需要、売り上げともに増加しており、新型コロナの影響はほぼ感じられない。

3）今後の見通しについて

- ・ハウスすだち、シンビジウム、ハウスきゅうり等の施設園芸農家
 需要や売り上げは回復傾向であるが、加温に必要な燃油の価格が高止まりしており、次作の所得確保を危惧。
- ・かんしょ、レタス、ネギ等の露地栽培農家
 売り上げは、新型コロナ以前まで回復しているが、販売単価や肥料など生産資材の値上げの動向を注視。

(2) 畜産業

1) 売上げの状況 (2022年2月期・3月期・4月期実績、2022年5月期見込み)

	減少した	変わらない	増加した
2020年同期比	39%～45%	47%～66%	6%～19%
2021年同期比	16%～38%	50%～59%	9%～22%

2) 個別の状況

- ・肉用牛 3月以降の需要は若干回復したが、配合飼料価格の高騰により、依然厳しい経営状況。
- ・肉用鶏 (阿波尾鶏含む) ブロイラーについては、堅調であった家庭用需要に加え、飲食店などの業務用需要が回復。しかし、阿波尾鶏などの高価格帯商品については、売上げが伸びていない。
- ・鶏卵 ゴールデンウィークには一時的に飲食店需要が拡大。
- ・養豚 新型コロナの影響は感じないものの、配合飼料価格の高騰が経営を圧迫。
- ・酪農 生乳価格は一定で推移しているが、配合飼料価格の高騰に加え、輸入牧草価格が上昇しており、所得が減少。

3) 今後の見通しについて

- ・全畜種 需要や価格は回復しつつあるが、配合飼料価格の高騰により、今後の見通しが立たない。
- ・肉用鶏 (阿波尾鶏含む) 外食需要が回復していることから、ブロイラーの業務用商品の営業活動を強化し、所得の確保を図りたい。また、阿波尾鶏については、価格変動の少ない加工品の販売を強化したい。

(3) 水産業

1) 売上げの状況 (2022年2月期・3月期・4月期実績、2022年5月期見込み)

	減少した	変わらない	増加した
2020年同期比	47%～53%	6%～30%	12%～30%
2021年同期比	41%～70%	6%～30%	12%～18%

2) 個別の状況

- ・鮮魚 相場は新型コロナ拡大以前に戻りつつあるが、不漁続きであることに加え、燃油価格の高騰で所得が減少。
- ・スジアオノリ 水温などの影響で良質なノリを生産することができなかった上、燃油価格等の高騰で所得が減少。

3) 今後の見通しについて

- ・全種 漁業用燃油価格の高騰など、新型コロナ以外の要因により経営が一層厳しくなることを危惧。
- ・鮮魚 ハモについては、加工品の割合を多くして、売上げを安定させたい。

(4) 林業

1) 売上げの状況 (2022年2月期・3月期・4月期実績、2022年5月期見込み)

	減少した	変わらない	増加した
2020年同期比	11%～22%	25%～31%	58%～44%
2021年同期比	14%～22%	22%～28%	44%～53%

2) 個別の状況

- ・ 素材生産業者 スギ原木の価格は、新型コロナ以前の1割から2割程度を超える水準。
- ・ 製材業者 丸太の入荷が減少するなど、原材料不足により仕入れコストが増加し、所得が減少。
- ・ チップ加工業者 ボードに加工するチップ用原木の価格が上昇し、所得が減少。

3) 今後の見通しについて

- ・ 素材生産業者 原木価格が高値で安定しているため増産したいが、人手不足である。林業従事者の高齢化も進んでおり、今後の労働力の確保が課題。
- ・ 製材業者、チップ加工業者 原木不足に伴う価格の高騰により、生産コストが増加しており、安定的な木材製品の供給や所得の減収を危惧。